

■ desknet's スタANDARD版：サーバを移行する方法（手順・手続き）

【対象バージョン】 desknet's STANDARD版 全バージョン

※desknet's STANDARD版は、2016年12月をもちまして製品サポートを終了しました。

継続してご利用いただく場合は、後継製品の desknet's NEO へ乗り換えをご検討ください。

(1)

サーバ機変更に伴うデータ移行を行う場合、旧サーバと新サーバ上の desknet's のバージョン(リビジョン)を揃えた状態でデータ移行を行う必要があります。

・旧サーバ：

desknet's を最新バージョン(リビジョン)にバージョンアップして下さい。

[アップデートモジュールダウンロード(サーバ)]

https://www.desknets.com/standard/download/dl_server.html

・新サーバ：

最新バージョン(リビジョン)の desknet's をインストールして下さい。

[新規インストールモジュールダウンロード]

<https://www.desknets.com/standard/download/download.html>

※ ご利用のサーバOS 用の最新バージョンアップ・インストールモジュールが未提供の場合や、お客様のご都合により最新バージョンまでバージョンアップ・インストールが行えない場合は、別途お問合せフォームよりご相談ください。

[お問合せフォーム]

https://ssl.neo.co.jp/desknets/standard/support/inquiry/inq_contract.html

(上記 URL にアクセスができない場合は、desknet's NEO のお問い合わせフォームよりご相談ください。)

(2)

ライセンスキーはサーバー機固有に発行している為、今回のサーバー機変更により、ライセンスキーの再発行を行う必要があり、desknet's をご購入して1年以内であれば無償、1年以降の場合はサポートサービス(有償)をご購入することにより再発行を承っております。

新サーバーの desknet's にアクセスし、「お客様コード」をご確認の上、ライセンスキーの再発行の申請を行ってください。

ライセンスキーの再発行申請はこちらよりご申請ください。

[ライセンスキーオンライン申請]

<https://www.desknet.com/standard/support/licensekey.html>

【ご注意】

ライセンスキーの再発行はご申請後、当日(※)に発行させていただいております。

- ※ ライセンスキー発行申請受付は営業時間内[10:00～17:00]となります。17:00 を経過した場合は翌営業日の受付扱いとなりますのでご了承ください。(夜間・祝日での申請の場合は、翌営業日の発行となります)
- ※ サポートサービスを未購入のお客様は、取り急ぎすぐにご利用いただけます「暫定ライセンスキー」を発行させていただき、サポートサービスご購入後正式な「ライセンスキー」の発行となります。

(3)

新サーバーにインストールしたのインストールディレクトリ「dnet」下の「data」「file」を削除します。

(4)

旧サーバーのインストールディレクトリ「dnet」下の「data」「file」を新サーバーのインストールディレクトリ下にコピーします。

- ※ 旧サーバーの desknet's を運用中にコピーいたしますとデータ等が破損する恐れがありますので、ユーザーが desknet's にアクセスしていない時間帯か、運用を停止してから行ってください。
運用を完全に停止するには Web サーバーのサービスを停止させてください。
- ※ スケジューラー、文書管理自動取り込み等の常駐型プログラムが起動している場合、コピーに失敗したり、データ移行後、旧サーバーでメールを受信される可能性がありますので、「**付録(1) : スケジューラー、文書管理自動取り込みの停止方法**」をご参考に**常駐型プログラムを必ず停止**させてください。
- ※ 移行先の「data」「file」を削除せず、**上書きコピーをしますと、ファイルが破損**することがございます。
- ※ 移行後、**必ず旧サーバーと新サーバーの「data」「file」のファイル数が同じ**であるかご確認ください。
- ※ 移行後、新サーバーの「data」「file」以下の構成ファイル/フォルダに対しアクセス権の再設定を行ってください。
再設定方法例は「**付録(2) : desknet's の構成ファイルのアクセス権の再設定方法**」をご参照ください。
- ※ 旧サーバーと新サーバーが異なる OS(Windows 系⇔Linux 系)間のデータ移行を行われる際の注意事項は「**付録(3) : 異なる OS 間のデータ移行の注意事項**」をご参照ください。

(5)

新サーバーに再発行されたライセンスキーを登録。

※ライセンスキーはデータ移行が完了後に登録してください。

(6)

必要に応じてアドオンソフト(携帯版・アラームサービス等)のインストール。

(7)

新サーバーの desknet's の動作確認後問題がなければ、旧サーバーの desknet's をアンインストール。

以上

付録(1) : スケジューラー、文書管理自動取り込みの停止方法

サーバにて以下の方法でサービスの停止を行って下さい。

■ [Windows サーバーで desknet's の“スケジューラーサービス”から実行している場合]

タスクバーより、スケジューラー監視ツールのメニューを表示し、“[予定通知／アラーム]サービスを停止する”を選択することで、モジュールを停止することが可能です。

■ [Windows サーバーで at コマンドから実行している場合]

タスクマネージャより、「プロセス」の一覧を表示し、スケジューラー (xscheduler.exe) 、文書管理自動取り込み (xdocreminer.exe) が存在する場合は選択し、“プロセスの終了”を選択することで、モジュールを停止することが可能です。

■ [Windows サーバーで .bat ファイルから起動している場合]

.bat ファイル実行時に起動したコマンドプロンプトを終了することで、モジュールを停止することが可能です。

■ [Linux サーバーで sh ファイルから起動している場合]

ps コマンド等でプロセスの一覧を表示し、表示されたプロセス一覧の「xscheduler」プロセスと、「xdocreminer」プロセスが起動している場合は、こちらを終了することで、モジュールを停止することが可能です。

付録(2) : desknet's の構成ファイルのアクセス権の再設定方法

サーバにて以下の方法でファイルのアクセス権の再設定を行って下さい。

■ [WindowsServer2008/2012 + IIS] の場合・・・

desknet's をインストールしたパスが「C:¥Inetpub¥scripts¥dnet」である場合、エクスプローラの操作で、C:¥Inetpub¥scripts¥dnet フォルダの右クリックから[プロパティ]を表示し、[セキュリティ]タブにて[Everyone]のアクセス許可が [フルコントロール]になっている事を確認してください。

※上記のような設定になっていない場合は、「編集」ボタンを押下し[Everyone]ユーザーに対し[フルコントロール]のアクセス許可の設定を行ってください。

また、以下の手順で下位フォルダ/ファイルに対し同じアクセス権の設定を行ってください。【重要】

- 1) [セキュリティ]タブにて「詳細設定」ボタンを押下。
- 2) 「セキュリティの詳細設定」画面の[アクセス許可]タブにて「編集」ボタンを押下。
- 3) さらに「セキュリティの詳細設定」画面が表示されますので、画面下部の"すべての既存の継承可能なアクセス許可すべてを、このオブジェクトからの継承可能なアクセス許可で置き換える(P)"の項目にチェックをつけて、「OK」ボタンを押下。
- 4) 「Windows セキュリティ」画面で続行確認が表示されますので「はい」ボタンを押下。

■ [Linux 系 OS + Apache] の場合・・・

desknet's インストール先ディレクトリ「/var/www/cgi-bin/dnet」だとします。

Apache の設定ファイル「httpd.conf」を開いて User と Group の設定値を確認し、仮に「User」の設定値が「apache」、
「Group」の設定値が「apache」だった場合、サーバま sh ンでのコマンドラインでの操作で、スーパーユーザー(root)となって以下のように chown、Chmod コマンドを実行してください。

[コマンド]

```
# chown -R apache:apache /var/www/cgi-bin/dnet  
# chmod -R 755 /var/www/cgi-bin/dnet
```

※オプションの"-R"は大文字の R を入力してください。

付録(3) : 異なる OS 間のデータ移行の注意事項

【旧サーバーと新サーバーが異なる OS(Windows 系⇔Linux 系)間である場合の注意点】

- 1) アクセス URL が必ず異なりますので、事前にご利用者に周知をお願いいたします。

[Windows 系 OS のアクセス URL 例]

http://(サーバー名)/scripts/dnet/**dnet.exe?**

[Linux 系 OS のアクセス URL 例]

http://(サーバー名)/cgi-bin/dnet/**dnet.cgi?**

- 2) 「data」ディレクトリのデータを旧サーバーから新サーバーへ移行する際に文字コード変換していただく必要があり、文字コードの変換は FTP ツール等に含まれる文字コード変換機能をご利用ください。

【旧サーバーが Windows 系、新サーバーが Linux 系である場合・・・】

「data」ディレクトリ下の全ファイルに対し文字コードを Shift-JIS から EUC へ変換してください。

【旧サーバーが Linux 系、新サーバーが Windows 系である場合・・・】

「data」ディレクトリ下の全ファイルに対し文字コードを EUC から Shift-JIS へ変換してください。

※変換機能に改行コードの指定がある場合は、Linux 系から Windows 系への移行時には LF → CR+LF に、Windows 系から Linux 系への移行では、CR+LF → LF を指定し変換を行って下さい。

※ウェブメールをご利用の場合、メールの文字コードによりましては、移行後メールの内容が文字化けする等正常に表示されない可能性があります。

その際は大変お手数ですが下記の 18 桁の数値のファイルをバイナリ形式(無変換)で個別に移行を行ってください。

[対象ファイル]

「・・・/dnet/data/user/(ユーザ ID(* 1))/mail/(フォルダ ID(* 2))」フォルダ以下の

18 桁の数値のファイル

* 1

ユーザ ID 値はユーザ毎のシステム ID で、数値のディレクトリとなります。

ユーザの ID は、desknet's 管理者設定よりユーザ情報のエクスポートを実施することで、出力される CSV よりご確認ください。ご了承ください。

* 2

フォルダ ID 値はユーザ毎に表示されるメールフォルダの ID で、数値のディレクトリとなります。

1 ... 受信ボックス、 2 ... 送信ボックス、 3 ... ごみ箱、 -1 ... 下書き

その他の数値のディレクトリ ... ユーザ作成のフォルダ

※「file」ディレクトリに関しては、文字コードを変換する必要はありません。

「file」ディレクトリの文字コード変換を実施されますと、各機能の登録添付ファイルが破損する恐れがございます。